

DX推進者のための“人間中心DX”実践

このコースは、昨年度「デジタル(DX)時代の業務のデジタルシフトへの考え方・進め方～サービスデザインを踏まえた要件定義」というコース名で開催しました。内容が一部重複しますのでご了承ください。



デジタル化は、人を中心と考えて、これから業務のやり方の進化（シフト）を理解し、再定義します。

本質的にやりたいことをAIと協働しながら整理し、価値を表す要件定義に取り組むことが重要です。
使う人（顧客）目線で、サービスデザインの思考で立案・共有しすることにより、開発後のユーザとの認識のズレを減らすことができます。

コース詳細	
研修講座コード	ST011
受講料	¥66,000
開催予定	2日間(12時間) 2026-11-17(火)～2026-11-18(水)
開講時間	9:30-16:30（お昼休み 基本12:00から13:00まで）
前提知識	「DX推進者のための“価値起点DX”入門」を受講済であることが望ましい
対象者	DX推進担当者（自社で内製化・ノーコードのプロジェクトを実施する方など） DX推進担当の支援者 デジタル推進部門の方 デジタル時代の要件定義をゼロから学びたい方
到達目標	・デジタル化に際し、これからの業務のやり方見える化できるようになる。 ・本質的にやりたいことをAIと協働しながら整理して、価値を表す要件を定義ができるようになる。 ・使う人（顧客）目線で、デザインできるようになる。
講師	(有)ボランチ21 大橋 知子
備考	◎ PMIタレント・トライアングル ：働き方1、パワースキル4、ビジネス感覚7 PMI資格認定の更新について 更新手続きについては、 PMI CCRハンドブック（日本語版） をご参照ください。 ※PMI日本支部のサイトに接続します。

研修内容

- <1日目>
- 0.デジタルの時代とは
1.DX時代のビジネス価値（デジタル時代の仕事）
ビジネスモデルの変化とワークシフト
～ビジネス常識が変わってきた！～いろんなAIと「協働」する
・求められるスピード感
2. 業務の見える化ではなく、人間中心に考える要件定義
・デジタルで完結するビジネスプロセスを人間中心に考える
・価値の見える化
・全体から考える(全体最適)
・ユーザ主体のストーリー（要件）の定義
～なぜから考える・習慣化
<実践ワークショップ：ビジネスの分析>
・ビジネスモデル
・ジャーニーマップによる要件定義（仮題）
- <2日目>
3. 変化に強いモデリング
・複数テーマの分析（優先度、変更管理）
・ビジネス分析とプロジェクトの関係
・文書ではなく”データ”から本質的に必要なこと見える化
～アプリの民主化、データの民主化、AIの民主化
・データは社外からも持ってくる
・テストファーストの考え方
・機能の要件定義と非機能の要件定義
～本当に使いやすいか？（使いにくいは生産性を落とす）
・自分たちでどこまでやるか、外に依頼するか
(ベンダーロックインされな外部委託のポイント)
4. 現場の変革
・作ると使う（開発と運用）はセット
・立ちはだかる壁を乗り越えるために
・将来的にビジネス変化とともに必ずシステムは変更する～マニュアルは、最初しか見ない
・他の業務への影響を分析する～後工程はお客様
・ツールに頼る”落とし穴”
5. プロジェクト企画へ
・プロジェクト企画のReadyの状態をAIと「協働」でレビュー
- <実践ワークショップ：プロジェクト企画>
・サービスデザイン・ストーリーのレビュー
・サービス・ブループリントからユーザーストーリーへ
- ◎まとめ / 現場での実践にむけて
※進捗状況により変更となる場合があります。

お問い合わせ先

(株)北海道ソフトウェア技術開発機構 事業部研修課

営業時間: 平日 9:00～17:00

お問合せ: <https://www.deos.co.jp/contact>

電話：（011）816-9700